

2023(令和5)年度調査研究報告

2023(令和5)年度 修学旅行の実施状況調査

関東地区公立中学校修学旅行委員会

集計と比較

調査時期:2023(令和5)年7月～2023(令和5)年11月

[本調査は上記の期間に実施したため、実際の実施状況とは異なる部分があります]

2024(令和6)年2月 発行

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

目 次

1 調査研究のねらいと概要	1
(1) 調査研究のねらい	1
(2) 調査の概要	1
① 調査対象	
② 調査時期	
③ 調査内容	
④ 調査・集計方法	
2 2023(令和5)年度の修学旅行について	2
(1) 回答状況	2
(2) 実施概況	2
① 2023(令和5)年度の修学旅行について	2
② 実施時期	2
③ 実施期間	4
④ 実施学年	5
⑤ 実施方面	5
⑥ 都道府県別宿泊地	6
⑦ 生徒一人あたりの方面別旅行費用 平均額	8
⑧ 生徒一人あたりの旅行費用分布	8
⑨ 生徒一人あたりの交通費(貸切バス代除く)分布	8
⑩ 生徒一人あたりの貸切バス代分布	9
⑪ 生徒一人あたりの宿泊費分布	9
⑫ 生徒一人あたりの体験費分布	9
⑬ 生徒一人あたりの保険料分布	10
⑭ 小遣い上限 平均額	10
⑮ 旅行方面別費用内訳 平均額	10
⑯ 参加生徒数別 旅行費用平均額	10
⑰ 参加生徒数別 諸費用平均額	11
⑱ 参加生徒数別 方面別旅行費用 平均額	11
㉑ 不参加生徒について	12
(3) 修学旅行実施にあたり昨年度と変更した点	13
(4) 今後、修学旅行先として検討したい方面や地域	13
(5) アレルギー対応について	14
(6) 他校に紹介したい取り組み	17
(7) これからの修学旅行実施について課題と思われること	19

1 調査研究のねらいと概要

(1) 調査研究のねらい

1958（昭和33）年10月1日の小・中学校学習指導要領告示により、修学旅行の教育課程への位置付けが明確にされてから半世紀あまり、またもや修学旅行は新たな試練に遭遇した。

2020（令和2）年初頭、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まり、所謂パンデミックが世界中に広がった。日常生活はもとより、修学旅行も次々と延期・中止などを余儀なくされた。

しかしながら、文部科学省は2020（令和2）年3月24日付事務次官通知で「修学旅行については、その教育的意義や児童生徒の心情等にも配慮いただき、当面の措置として取り止める場合においても、中止ではなく延期扱いとすることを検討いただくなどの配慮をお願いしたい」という方針を表明した。これは日本の学校教育において修学旅行が有する高い教育的価値を十二分に認めている証左である。

そして苦しい3年間の時を経て、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行された本2023（令和5）年度、学校及び関係者は厳しい感染症対策をなお継続しつつも、ようやく計画通りの修学旅行を行える状況に復した。しかしながら、修学旅行を取り巻く環境には様々な部分で、依然としてコロナ禍による影響が色濃く残っていることも事実である。

その点も踏まえつつ、本調査においては基本的な調査項目として実施概況、時期、日数、方面訪問地、旅行費用及び不参加生徒数等について集計考察を行うとともに、抱えている課題にも踏み込み、コロナ禍後初年度の修学旅行についてより実態に近い実施状況の把握を行うこととした。

今後も地道な調査と分析・研究を進めながら、将来的に求められる修学旅行像及びその環境づくりの一助となればと願っている。

(2) 調査の概要

- | | |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査対象 | 関東地区（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉）の公立中学校を対象 |
| ② 調査時期 | 2023（令和5）年7月～2023（令和5）年11月
※2023（令和5）年12月以降に実施予定の学校については回答時点での予定を調査 |
| ③ 調査内容 | <ul style="list-style-type: none">・実施時期、実施期間、実施方面、旅行費用、不参加生徒等・アレルギー対策・他校へ紹介したい取り組み・これからの修学旅行の課題について |
| ④ 調査・集計方法 | <ul style="list-style-type: none">・全校オンラインで調査、回答・(2)実施概況 以降は集計対象校数を基準として算出した・表中の「割合」については小数点第二位以下四捨五入しているため表示上の割合の合計が100%とならないものもある・特別支援学校及び高等学校附属中学校は特殊性が高いため金額の集計対象から除外した・旅行方面は宿泊地を基準とし、宿泊地が複数にまたがる場合は、1泊目の宿泊地を基準として実施方面を集計した・諸費用（交通費・宿泊費・体験費等）の平均額算出については国内実施かつ期間が2泊3日の校数を母数として用いている。 |

2 2023(令和5)年度の修学旅行について

(1) 回答状況(校数と割合)

(校・%)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	216	149	156	412	363	1,296
回答校数	216	149	156	412	363	1,296
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

回答者

(校)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
校長	13	83	139	341	318	894
副校長			1	1	1	3
教頭	74	1	6	10	8	99
学年主任	112	58	10	37	26	243
教諭	16	6		23	9	54
その他	1	1			1	3

(2) 実施概況

① 2023(令和5)年度の修学旅行について

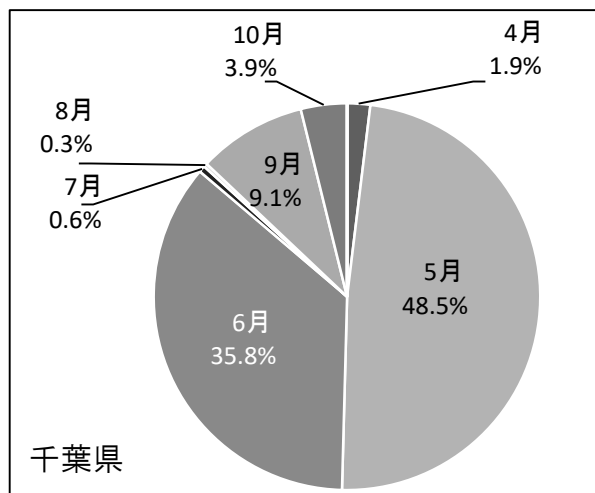
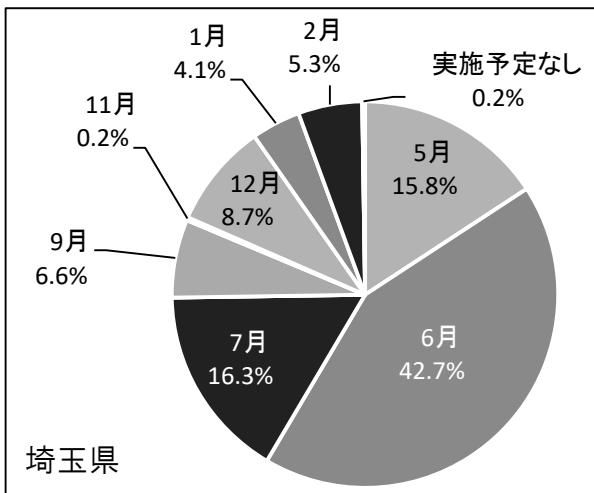
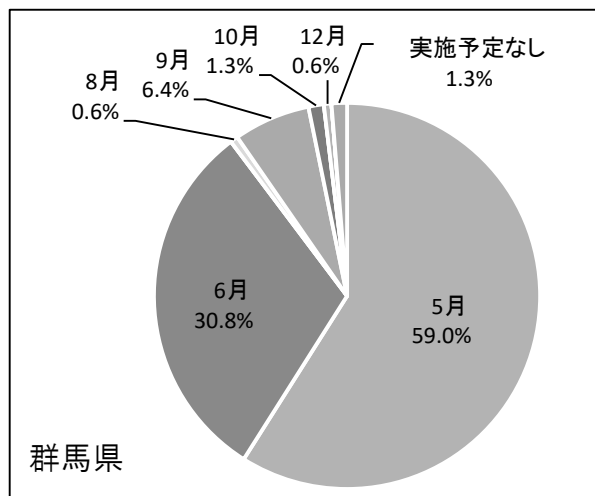
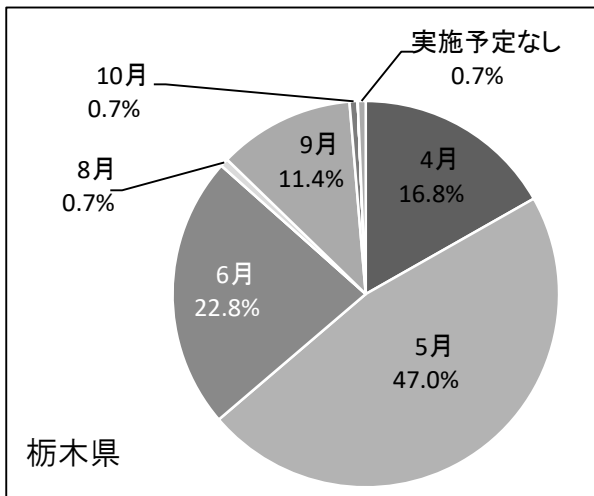
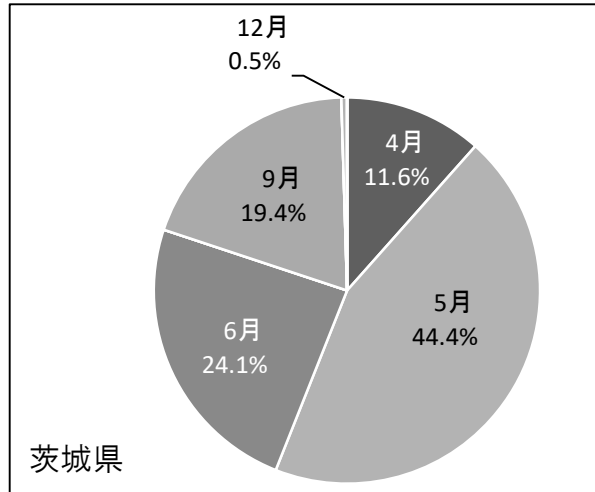
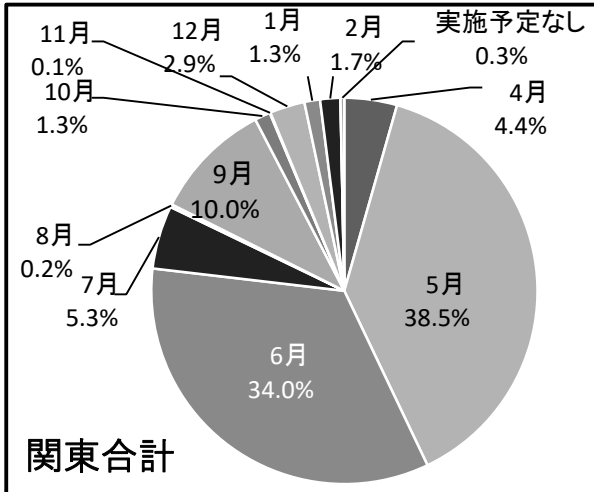
(校)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
予定通り実施	214	148	152	409	356	1,279
期日方面等を変更して実施	2		2	2	7	13
実施予定なし		1	2	1		4

② 実施時期(校数と割合)

(校・%)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月	25	25			7	57	4.4
5月	96	70	92	65	176	499	38.5
6月	52	34	48	176	130	440	34.0
7月				67	2	69	5.3
8月		1	1		1	3	0.2
9月	42	17	10	27	33	129	10.0
10月		1	2		14	17	1.3
11月				1		1	0.1
12月	1		1	36		38	2.9
1月				17		17	1.3
2月				22		22	1.7
3月						0	0.0
実施予定なし		1	2	1		4	0.3
合計校数	216	149	156	412	363	1,296	100.0



○5県とも春季(4月～7月)に実施した学校の割合が益々高くなり、コロナ禍前の実施時期の傾向にほぼ戻った。

○前年度に引き続き夏秋以降に実施した学校が一定数発生したが、9月中の実施校割合が高い。

③ 実施期間

(校・%)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
1泊2日	1		1		2	4	0.3
2泊3日	215	147	152	409	360	1,283	99.0
3泊以上		1	1	2	1	5	0.4
実施予定なし		1	2	1		4	0.3
合計校数	216	149	156	412	363	1,296	100.0

④ 実施学年

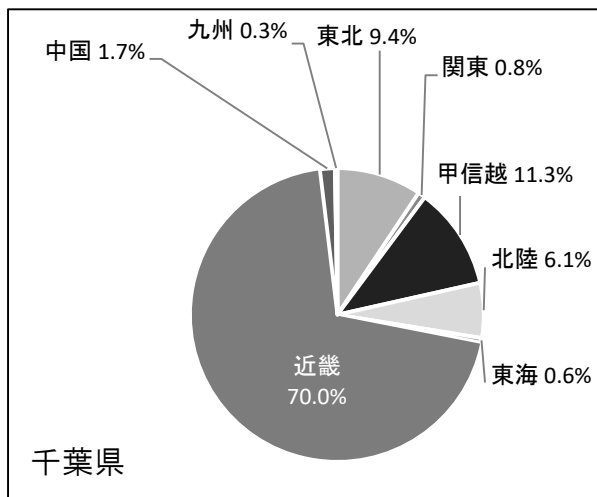
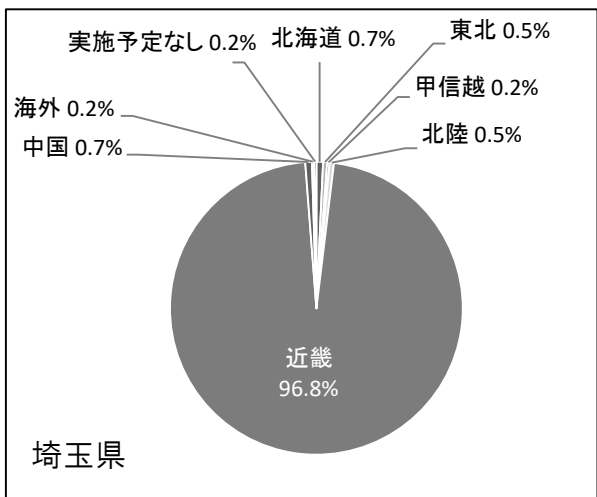
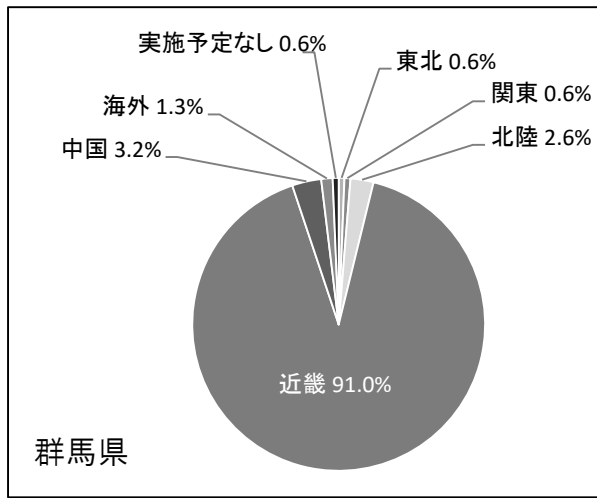
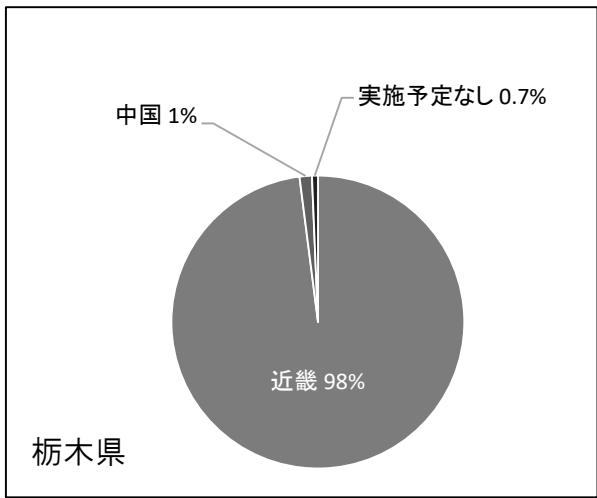
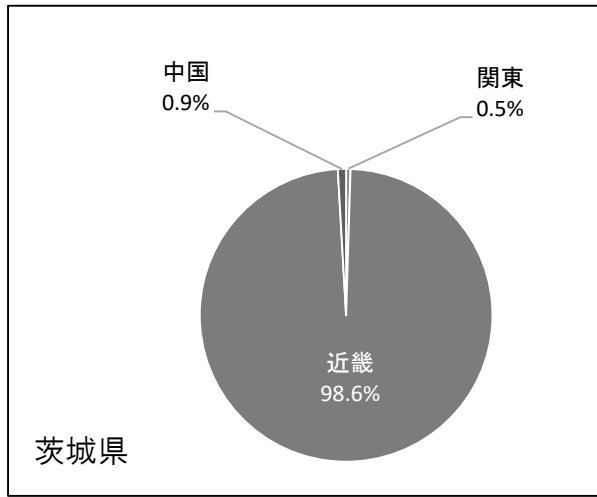
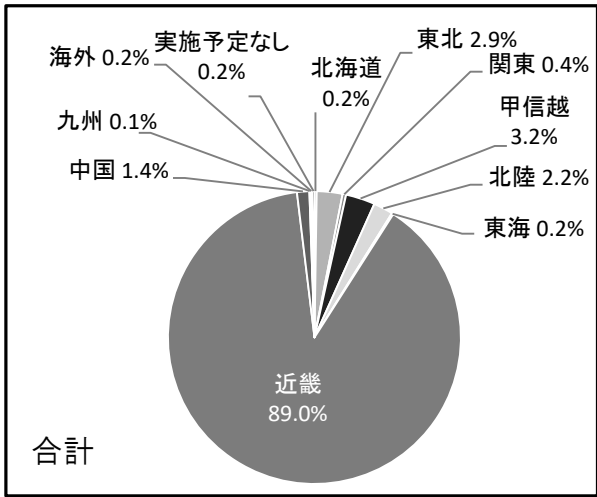
(校・%)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3年生	214	145	152	334	363	1,208	93.2
2年生	2	2		76		80	6.2
複数学年		1	2	1		4	0.3
実施予定なし		1	2	1		4	0.3
合計校数	216	149	156	412	363	1,296	100.0

⑤ 実施方面

(校・%)

方面	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
北海道				3		3	0.2
東北			1	2	34	37	2.9
関東	1		1		3	5	0.4
甲信越				1	41	42	3.2
北陸			4	2	22	28	2.2
東海					2	2	0.2
近畿	213	146	142	399	254	1,154	89.0
中国	2	2	5	3	6	18	1.4
九州					1	1	0.1
海外			2	1		3	0.2
実施予定なし		1	1	1		3	0.2
合計校数	216	149	156	412	363	1,296	100.0



⑥ 都道府県別宿泊地 ※海外・実施予定なしは除く

〈関東地区〉
宿泊校数

(校)

方面	宿 営 都 府 県	一泊目					一泊目 合計	二泊目					二泊目 合計
		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	
北海道	北海道	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	0	3
東北	青森						0						0
	岩手					2	2					1	1
	宮城			1	2		3			1	2	1	4
	秋田						0						0
	山形						0						0
	福島					32	32					31	31
	小計	0	0	1	2	34	37	0	0	1	2	33	36
関東	茨城						0	1					1
	栃木					2	2					4	4
	群馬						0						0
	埼玉						0						0
	千葉	1					1						0
	東京			1		1	2	1					1
	神奈川						0						0
	小計	1	0	1	0	3	5	2	0	0	0	4	6
甲信越	山梨					1	1					1	1
	新潟				1		1					3	3
	長野					40	40					38	38
	小計	0	0	0	1	41	42	0	0	0	0	42	42
北陸	富山					2	2						0
	石川			4	2	20	26			4	3	22	29
	福井						0						0
	小計	0	0	4	2	22	28	0	0	4	3	22	29
東海	岐阜					1	1						0
	静岡					1	1						0
	愛知						0						0
	三重						0						0
	小計	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
近畿	滋賀	3		1	3	8	15	4		1	4	9	18
	京都	198	132	137	381	230	1,078	204	143	145	389	246	1,127
	大阪	1	8			8	17		1		1	2	4
	兵庫						0						0
	奈良	11	6	4	15	7	43	5	4		8	1	18
	和歌山					1	1						0
	小計	213	146	142	399	254	1,154	213	148	146	402	258	1,167
中国	鳥取						0						0
	島根						0						0
	岡山						0						0
	広島	2	2	5	3	6	18			1		1	2
	山口						0						0
	小計	2	2	5	3	6	18	0	0	1	0	1	2
四国	徳島						0						0
	香川						0						0
	愛媛						0						0
	高知						0						0
		小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州	福岡						0						0
	佐賀						0						0
	長崎						0						0
	熊本						0						0
	大分						0						0
	宮崎						0						0
	鹿児島					1	1					1	1
	小計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
沖縄	沖縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	216	148	153	410	363	1,290	215	148	152	410	361	1,286

※ 1泊2日実施の学校があるため1泊目と2泊目の合計数は異なる

宿泊人数

(人)

方面	県名 宿泊 都道府県	一泊目					一泊目 合計	二泊目					二泊目 合計
		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	
北海道	北海道	0	0	0	321	0	321	0	0	0	321	0	321
東北	青森						0						0
	岩手					227	227					118	118
	宮城			21	371		392			21	371	109	501
	秋田						0						0
	山形						0						0
	福島					3,896	3,896					3,685	3,685
	小計	0	0	21	371	4,123	4,515			21	371	3,912	4,304
関東	茨城						0	44					44
	栃木					59	59					278	278
	群馬						0						0
	埼玉						0						0
	千葉	3					3						0
	東京			3		8	11	190					190
	神奈川						0						0
	小計	3	0	3	0	67	73	234	0	0	0	278	512
甲信越	山梨					35	35					35	35
	新潟				155		155					391	391
	長野					6,279	6,279					6,090	6,090
	小計	0	0	0	155	6,314	6,469	0	0	0	0	6,516	6,516
北陸	富山					182	182						0
	石川			413	231	2,989	3,633			413	386	3,171	3,970
	福井						0						0
	小計	0	0	413	231	3,171	3,815	0	0	413	386	3,171	3,970
東海	岐阜					202	202						0
	静岡					58	58						0
	愛知						0						0
	三重						0						0
	小計	0	0	0	0	260	260	0	0	0	0	0	0
近畿	滋賀	453		350	480	1,183	2,466	562		350	510	1,470	2,892
	京都	20,090	13,860	14,847	52,397	29,004	130,198	20,683	15,089	15,474	53,354	31,158	135,758
	大阪	96	928			1,297	2,321		73		170	345	588
	兵庫						0						0
	奈良	1,081	563	308	1,808	904	4,664	458	230		969	123	1,780
	和歌山					146	146						0
	小計	21,720	15,351	15,505	54,685	32,534	139,795	21,703	15,392	15,824	55,003	33,096	141,018
中国	鳥取						0						0
	島根						0						0
	岡山						0						0
	広島	217	41	387	318	694	1,657			68		40	108
	山口						0						0
	小計	217	41	387	318	694	1,657	0	0	68	0	40	108
四国	徳島						0						0
	香川						0						0
	愛媛						0						0
	高知						0						0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州	福岡						0						0
	佐賀						0						0
	長崎						0						0
	熊本						0						0
	大分						0						0
	宮崎						0						0
	鹿児島					56	56					56	56
	小計	0	0	0	0	56	56	0	0	0	0	56	56
沖縄	沖縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	21,940	15,392	16,329	56,081	47,219	156,961	21,937	15,392	16,326	56,081	47,069	156,805

※ 1泊2日実施の学校があるため1泊目と2泊目の合計数は異なる

※以下⑦から⑩の諸表については国内2泊3日で修学旅行を実施した1,283校を対象として算出

⑦ 生徒一人あたりの方面別旅行費用平均額

(円)

旅行方面	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	総平均額
北海道				71,885		71,885
東北			51,704	65,383	48,241	49,261
関東					48,951	48,951
甲信越				77,300	49,903	50,555
北陸			62,237	63,778	60,845	61,253
東海					45,000	45,000
近畿	77,816	78,677	70,710	63,858	64,235	69,244
中国	83,244	90,000	76,103	63,734	69,679	73,538
九州					75,847	75,847
総平均額	77,866	78,754	70,540	63,956	60,812	67,880

⑧ 生徒一人あたりの旅行費用分布(校数と割合)

(校・%)

旅行費用(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
30,000未満						0	0.0
30,000～					1	1	0.1
35,000～					6	6	0.5
40,000～					10	10	0.8
45,000～				4	24	28	2.2
50,000～			1	22	33	56	4.4
55,000～			7	62	68	137	10.7
60,000～		2	18	130	89	239	18.6
65,000～	15	5	46	134	84	284	22.1
70,000～	33	23	39	41	33	169	13.2
75,000～	93	51	31	12	12	199	15.5
80,000～	60	50	7	3		120	9.4
85,000～	14	16	3	1		34	2.7
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

⑨ 生徒一人あたりの交通費(貸切バス代除く)分布(校数と割合)

(校・%)

交通費(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
5,000未満			2	11	69	82	6.4
5,000～	4	1	1	7	8	21	1.6
10,000～	6	5	1	56	53	121	9.4
15,000～	14	14	10	81	90	209	16.3
20,000～	31	13	45	144	65	298	23.2
25,000～	71	38	37	85	58	289	22.5
30,000～	52	38	32	14	16	152	11.8
35,000～	22	24	17	9	1	73	5.7
40,000～	12	8	6			26	2.0
45,000～	3	5	1	1		10	0.8
50,000～		1		1		2	0.2
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

総平均額(円)	28,577	30,033	27,895	21,176	16,550	22,929
---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

⑩ 生徒一人あたりの貸切バス代分布(校数と割合)

(校・%)

貸切バス代(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
5,000未満	11	13	32	175	82	313	24.4
5,000～	84	66	80	192	160	582	45.4
10,000～	107	55	36	28	94	320	24.9
15,000～	6	8	3	8	20	45	3.5
20,000～	4	4	1	2	4	15	1.2
25,000～	3	1		3		7	0.5
30,000～				1		1	0.1
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

総平均額(円)	10,438	9,624	7,683	6,119	8,174	8,006
---------	--------	-------	-------	-------	-------	-------

⑪ 生徒一人あたりの宿泊費分布(校数と割合)

(校・%)

宿泊費(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
5,000未満						0	0.0
5,000～						0	0.0
10,000～		1	1		2	4	0.3
15,000～	35	23	19	106	64	247	19.3
20,000～	121	100	108	263	222	814	63.4
25,000～	53	22	22	28	67	192	15.0
30,000～	5		1	7	3	16	1.2
35,000～		1	1	3	1	6	0.5
40,000～	1			1	1	3	0.2
45,000～						0	0.0
50,000～				1		1	0.1
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

総平均額(円)	23,222	22,684	22,445	21,999	22,644	22,516
---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

⑫ 生徒一人あたりの体験費分布(校数と割合)

(校・%)

体験費(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
500未満	52	29	43	113	66	303	23.6
500～	32	11	9	50	15	117	9.1
1,000～	16	6	15	49	36	122	9.5
1,500～	23	12	18	57	44	154	12.0
2,000～	23	21	22	42	47	155	12.1
2,500～	20	16	9	24	22	91	7.1
3,000～	13	20	16	24	25	98	7.6
3,500～	6	3	6	8	19	42	3.3
4,000～	6	10	6	14	16	52	4.1
4,500～	7	3	2	14	20	46	3.6
5,000～	17	16	6	14	50	103	8.0
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

総平均額(円)	2,247	2,691	1,766	1,648	2,752	2,191
---------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

⑬ 生徒一人あたりの保険料分布(校数と割合)

(校・%)

保険料(円)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
500未満	13	43	79	139	243	517	40.3
500～	100	87	43	183	63	476	37.1
1,000～	35	3	10	39	26	113	8.8
1,500～	24	2	4	23	20	73	5.7
2,000～	27	10	9	18	5	69	5.4
2,500～	16	2	2	4	2	26	2.0
3,000～			5	3	1	9	0.7
合計校数	215	147	152	409	360	1,283	100.0

総平均額(円)	1,204	720	757	805	538	782
---------	-------	-----	-----	-----	-----	-----

⑭ 小遣い上限 平均額

(円)

年度	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
2021(令和3)	11,789	16,374	7,881	10,589	7,729
2022(令和4)	16,622	20,556	15,459	11,128	11,282
2023(令和5)	17,101	20,929	15,551	11,372	11,747

⑮ 旅行方面別費用内訳 平均額

(円)

費用項目	宿泊費	交通費 (バス代除)	貸切 バス代	体験 活動費	保険料
北海道	20,283	21,640	6,168	6,633	1,575
東北	20,754	3,745	13,617	3,512	617
関東	21,400	840	13,871	1,400	756
甲信越	21,846	3,650	11,782	5,692	522
北陸	21,561	16,632	9,570	3,040	510
東海	19,580	7,280	8,333	1,800	237
近畿	22,632	24,344	7,697	2,007	803
中国	22,815	32,001	3,753	743	591
九州	17,600	28,880	10,546	7,318	1,926

⑯ 参加生徒数別 旅行費用平均額

(円)

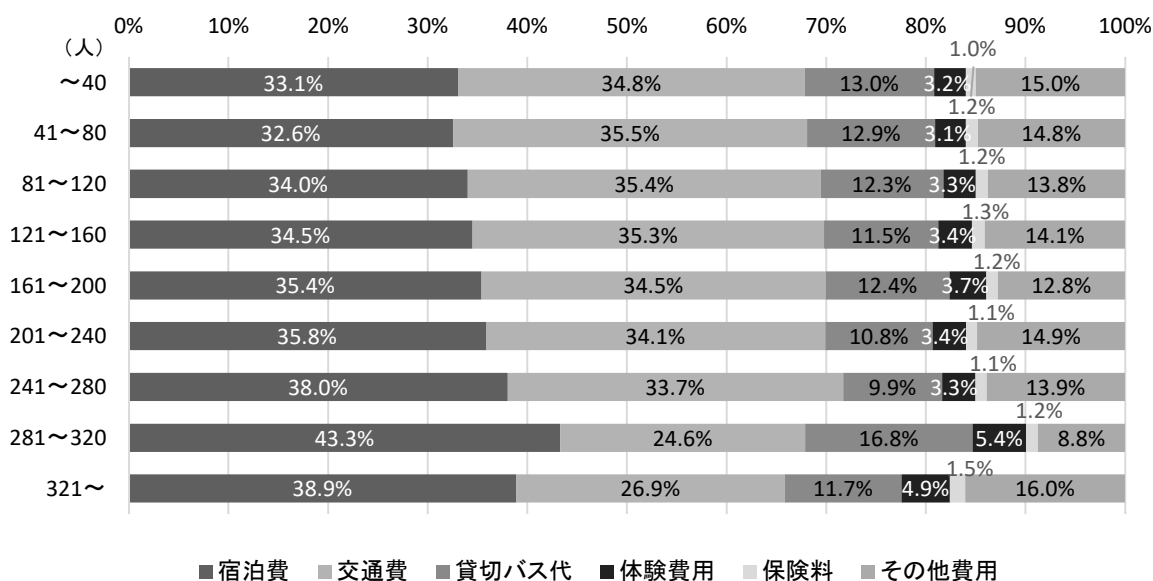
生徒数(人)	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
～40	80,997	80,589	70,580	64,758	62,098	71,054
41～80	78,935	80,360	70,894	64,397	61,670	69,974
81～120	76,760	78,591	71,078	63,026	60,742	68,205
121～160	76,291	76,085	70,593	64,144	61,694	67,150
161～200	77,736	77,398	68,458	63,344	59,660	65,981
201～240	76,771	76,712	68,066	65,747	59,368	65,534
241～280		76,754	70,177	64,018	62,660	64,751
281～320	90,103	78,736		61,762	55,233	61,330
321～			77,317	68,801	52,249	60,573

⑰ 参加生徒数別 諸費用平均額

(円)

生徒数 (人)	宿泊費	交通費 (バス代除)	貸切 バス代	体験 活動費	保険料	その他
～40	22,945	24,135	8,997	2,203	707	10,390
41～80	22,359	24,372	8,837	2,118	819	10,144
81～120	22,494	23,408	8,129	2,156	814	9,091
121～160	22,317	22,822	7,410	2,187	841	9,106
161～200	22,334	21,786	7,839	2,335	729	8,058
201～240	22,513	21,409	6,755	2,128	684	9,331
241～280	23,163	20,508	6,052	2,022	684	8,468
281～320	24,898	14,118	9,664	3,088	683	5,031
321～	23,304	16,136	7,037	2,910	922	9,609

旅行費用総額に対し諸費用が占める割合(参加生徒数別)



⑱ 参加生徒数別 方面別旅行費用 平均額

(円)

生徒数 (人)	北海道	東北	関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	九州
～40		51,952	48,951	55,000	66,127		72,748	77,677	
41～80	70,000	48,864		49,779	60,898		71,556	76,358	75,847
81～120		46,534		48,475	60,973		69,349	70,239	
121～160		52,948		51,822	63,075		67,899		
161～200	75,656	40,860		49,151	60,120		67,886	70,206	
201～240		52,190		52,080	59,646	45,000	66,812		
241～280		59,500		50,000	60,798		65,977		
281～320		50,116		54,388	64,000		65,388		
321～		49,000					63,467		

⑱ 不参加生徒について(複数回答)

校数

(校・%)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
学校数	199	126	130	360	335	1,150
集計対象校数比	92.1	84.6	83.3	87.4	92.3	88.7

人数

(人)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
不参加生徒数	1,148	858	740	3,008	2,220	7,974

(人)

(不参加理由別内訳)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
保護者判断	106	77	60	195	149	587
経済的理由	90	17	26	41	28	202
不登校	712	551	448	1,802	1,455	4,968
疾病	63	55	59	227	172	576
部活動	3	3	2	16	20	44
個人活動	5	5	13	73	30	126
その他	87	62	31	75	74	329

※内訳不明・理由重複があるため、人数は上記不参加生徒数とは合致しない

(3) 修学旅行実施にあたり昨年度と変更した点(複数回答)

(校・%)

内 容	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計	割合
なし	137	101	72	315	210	835	64.4
実施期間	12	2	31	5	19	69	5.3
実施時期	18	18	25	19	38	118	9.1
実施方面	24	20	47	19	58	168	13.0
実施学年		1	1			2	0.2
実施内容(ねらい・活動内容等)	34	17	40	50	76	217	16.7
指導計画・指導時間	18	9	15	17	28	87	6.7
その他	13	4	3	12	13	45	3.5

その他 交通機関の変更(片道を航空機へ変更・バスから新幹線利用へ等)、保険の内容、スマートフォンの利用、服装、班別行動時の移動をタクシーから公共交通機関へ、宿泊県の変更、小学校の修学旅行予定先を追加

(4) 今後、修学旅行先として検討したい方面や地域(複数回答)

(校・%)

方 面 ・ 地 域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計	割合
なし	91	69	73	231	134	598	46.1
北海道	13	22		25	12	72	5.6
東北	17	13	8	29	54	121	9.3
北関東	1				13	14	1.1
東京・千葉・神奈川	5		1	2	6	14	1.1
伊豆・箱根・富士	4	1	1		3	9	0.7
清里・蓼科・諏訪		1			16	17	1.3
白馬・安曇野・黒部	2	2		2	34	40	3.1
金沢・能登	11	15	24	43	57	150	11.6
福井・滋賀	1	2	4	6	5	18	1.4
京都・奈良	89	52	61	94	116	412	31.8
大阪・神戸	46	31	20	74	79	250	19.3
瀬戸内	2			4	1	7	0.5
四国	4			3	2	9	0.7
広島	33	22	12	40	52	159	12.3
長崎	8	1	1	3	2	15	1.2
福岡	3	1		1	2	7	0.5
沖縄	8	3	1	4	7	23	1.8
その他	3			2	3	8	0.6

その他 台湾、伊勢・志摩、名古屋、鹿児島県奄美市、長野、NZ以外の海外生徒や保護者の意見を参考に検討
希望よりも予算内で行ける地域

(5) アレルギー対応について(主な意見を抜粋)

① アレルギー対策で有効、情報共有が適切であった事例

- アレルギーの事前調査アンケートの結果をもとに旅行会社がホテルや弁当業者様に連絡し、その結果を旅行会社から学校経由で保護者に戻して確認した。
- 旅館等食事提供場所から食事メニュー(食材・成分表を含む)をいただき、当該生徒保護者に提示の上、旅行会社を通して、代替食やメニューの変更等を食事提供施設と打合せした。
- 修学旅行に向けての事前調査において、食物アレルギーについても確認し、宿泊先のメニューについても受け入れ先とも調整を図った上で旅行を実施した。
前日や当日のスタッフ会議でも確認項目に入れた。
- 参加申込書を提出する際に、保護者から食物アレルギーについて申告のあった生徒については、旅行会社を通じて旅館や弁当の業者に通達し、代替食を用意した。また、エピペンが必要な生徒もいたので、本人と養護教諭が常時携帯するようになった。
- アレルギー調査を行い旅行会社と連携した。そのとき、学校の窓口を限定して行うことで、対応の漏れがなくなった。
- 学年始めに確認しているが、改めて再確認して職員、旅行会社、ホテルで共有をした。また、外食となるので、本人、家庭での確認についても再度保護者に依頼した。
- アレルギー表を保護者に提示し、該当生徒とは事前に面談を行い、旅行業者と打合せを行った。
- エピペンの使用方法を事前に確認し、旅行中は常備した。なお、複数職員で食事のメニューをチェックした。
- アレルギーの個別一覧を宿泊施設や集団での昼食場所等へ提出しておいたことで、アレルギー対応食を用意していただくことができ、食事時のトラブルは無かった。
- 事前に成分表をもらっていたので、保護者・本人の判断で除去して食べられた。
偏食の生徒については、クール宅急便でレトルトなど食べられるものを保護者に送っていただき、ホテルで温めて提供してもらった。「みんなと食べたくない」という生徒にはパーティションによる仕切りを用意してもらった。
- 旅館の他、全体で何かを食べる際は、各食事提供場所から食品成分表を出してもらい、アレルギーのある生徒とその保護者に事前に確認してもらった。
また、当該生徒が万が一、アレルギー反応が出た際の対応について、保護者に来校してもらい引率教員と同じ班の生徒に対して説明してもらった。
- 同一市内で先に修学旅行を実施した学校より、宿での不適切な対応があった事実を校長会で情報共有し、校内でアレルギー対応をダブルチェックする体制をとった。
- アレルギー対象食品の除去ではなく、別メニューを用意してくれた。
- すき焼きを一人鍋にしてもらった。(卵、アレルギー対応)
- 当該生徒の座席を固定し、当該生徒と食事メニューを確認して誤食等の防止に努めた。
- バイキング形式の食事の際、アレルギー対応生徒を優先して最初に盛り付けさせ、トング等の混合が発生しないようにした。
- どの食品がどのように変わっているかを、現物に明記(サランラップと付箋を用いて)し、紙資料を添えていただく。それを見ながら、本人、担任、学年食事担当、ホテル食事担当者の四者で確認してから食事を摂るようにした。
- アレルギー対応について、宿泊施設の料理担当から、生徒一人一人に説明がされた。
- 生徒のみの班別行動時の昼食の際は教員と合流し、本人と教員で摂取可能か確認したうえで一緒に食事をとった。食後の体調変化がない事を確認してから、生徒のみの活動に戻した。その他の食事では、代替食

が用意されているか、学年主任と担任とで2重チェックするシステムをとった。

- アレルギーの生徒には個別にカードを持たせ、班別行動で飲食する場合に提示するようにした。
- 班別行動時の昼食について、生徒本人にアレルギー対応者であるカードをカバン等に付けさせ、店員等が確認できるように対応した。
- 班別行動で立寄る予定の店に事前に学校から直接電話をかけ、アレルギー対応について確認をした。さらに担任教諭が当日同時刻に店舗へ行き、直接食事内容を目視で確認した。
- タクシー班別行動で、事前に行く予定のお店にアレルギーの件で連絡を入れた。行き当たりばったりでお店を決めるとそれができないので、この班に限っては昼食だけは予定を変更しないように生徒達にも徹底した。
- 重度の食物アレルギーをもつ生徒の保護者の願いが、単なる代替食・除去食ではなく「みんなと同じようなメニューで、しかしアレルゲンを除去した、似て非なるもの」だったため、ホテルと保護者の直接やりとりのうえ、具体的メニューを決定させた。
- 修学旅行のみを対象としたアレルギー対策委員会を実施した上で、旅行会社および対象生徒保護者と繰り返しメニューの内容等を確認した。
- 宗教上、食べられないものがあるため、お弁当を持参するとともに、宿泊先では、別メニュー扱いで対応してもらった。

② アレルギー対策で留意すべき事例

- 最初から、生徒の食物アレルギー調査を実施し、万全を期することがとても大切であった。
生徒全体での食堂での食事メニューや弁当の注文をするときに、細かい食品成分表を旅行会社を通して、事前にいただき、生徒本人と保護者にそれを事前に検討してもらい、了解を得て申し込みをしなければならなかった。しかし、代替された食事内容があまりにも一般生徒の物と違って見劣りするものであったように感じられた。
- 学校と家庭が食物アレルギーの確認のために、文書と電話連絡を何度もしなくても済むような工夫を図りたい。旅行会社及び宿舍との連携をシンプルかつ確実に行う事が必要。
- 事前に食事場所の座席の位置がわかっているならば教えてほしい。
生卵がアレルギーの生徒に対応食として卵焼きが出た。確かに火が通っていれば食べられるが、その子の中に火が通っていないことを不安に思って、一口も食べられなかった。
- 1日目の食事会場にて、アレルゲンが入った食事が提供された。食事をとる前に生徒が発見して、大事には至らなかったが、事前に職員が確認するのを感じた。
- ホテル側の不手際で、アレルギー事故が起きた。代替食の小皿が、除かなくてもいい小皿と取り換えられており、アレルゲンの入った除去食の小皿が残ったまま、代替メニューとして提供され、食べてしまったためアナフィラキシーショック（吐き気や腹痛）が起きた。
- メニュー名と写真、アレルギー表示だけで、原材料名が分からず誤食してしまった。実際に症状が出てしまい、処方薬がない生徒だったので冷やすなどの対応をした。保護者と連絡を取りながら対応方を相談せざるを得なかった。
- ホテルからのメニュー事前提示に「フルーツ」とあった。それ以上の詳しいものが提示されないまま当日を迎えたところ、キウイが出されていた。
食前に養護教諭が確認し、キウイにアレルギーのある生徒には食べないよう指示するとともに、ホテル側にその旨伝え、別のフルーツへの変更対応をしていただいた。
- ホテル以外での対応はなかなか難しいことが、改めてわかった。最終日に京都駅近くのショッピングモール内の食堂を利用したが、小麦アレルギーを持つ生徒の昼食は「対応したものを準備する」とのことであったにも拘らず、ご飯と生野菜しかなかった。急遽、余計なタレ（とろみ）等を絡めないでステーキ風に

- 焼いた肉が用意されたが、一般の厨房ではまだまだ認識や対応が甘いことがわかった。
- すき焼きの時、4～5人で1つの鍋を使用したため、アレルギーやコロナ等の感染は少し心配であった。
 - すき焼きの鍋からの取り箸を分けることに苦労したため、個人鍋であるとありがたい。
 - 部屋食であったため、アレルギー対応が非常に大変であった。特に「すき焼き」では、個別の鍋を準備する必要があった。また、事前に伝えていた対応が旅館の調理場に伝わっておらず、対応の必要な部屋の全て教員が回り、指導を行う状態となった。
 - バイキング形式の食事では、該当生徒はセットメニューとし、確実にアレルギー源の確認を家庭と提供施設で行ったほうがよい。
 - アレルギーの影響が強い生徒はトングなどでも反応が出ることがある。
 - 教員の許可を得ず、落花生アレルギーを持つ生徒が土産店からピーナッツが含まれた飴をもらい、食べてしまう事例が発生した。
 - 旅行会社を通じ事前提供されていた成分表にない食事が提供され、胡麻和えを食べた生徒がアナフィラキシーを発症した。
 - 玉ねぎアレルギーを有する生徒が、玉ねぎ成分を含むハンバーグソースを気付かずに口に含んでしまったため、体に痒みが出てしまった。大事には至らなかったが、アレルギー食材が、原型をとどめぬ状態で含まれている場合もあることに留意する必要があると痛感した。
 - 小麦アレルギーで、念のため麦茶（大麦ですが）も飲まないようにしている生徒がいたが、宿での食事の際に、ほうじ茶と勘違いして麦茶を口にしてしまった。食事については成分表で確認していたが、湯茶に関しては成分表に記載がなかった。
 - 食材以外の物（調味料など）に含まれるアレルギー物質の表記が徹底されていない。
 - 昼食に出たジンギスカンのたれにくるみや落花生を使用していて、アレルギー症状が出た生徒がいた（唇が1時間程度腫れる軽症）。事前にアレルギー調査票を提出させていたが、保護者が記載をしていなかったため配慮できなかった。本人は自分でナッツアレルギーと知っていたが、たれの見ただけからは入っているか判断できず喫食した。調査票には小さなことでも正確に書いてもらわないと大きな事故につながると感じた。
 - 旅館で当日、欠席等の関係で座席が変更され、食事を器ごと移動させるケースがあった。アレルギー対応の生徒分の座席は固定したり、事前に目立つようにしておくなどの工夫が必要であった。
 - 班別行動中に入った店で、試食で出されたお菓子を、本人は何かよく分からずに食べてしまった。そのお菓子にアレルギーのある食材が含まれていて、アレルギー症状が出てしまった。
 - 班別行動中の飲食や昼食は目が行き届かないので、本人保護者に任せざるを得ない。バイキング型の場合、アレルギーの生徒が先にとって、おかわりは無しとした。トングの行き違いがあっては危険なので。
 - 線状降水帯の影響により車中泊となったが、急遽調達したパン、おにぎり、栄養補助食品の成分確認を保護者にしてもらうことが困難だった。
 - 宿泊施設から、メニュー表を送付いただくよう依頼したが、届くのに時間がかかり、保護者との打合せに時間を要した。
 - 宗教上の食物摂取制限があり、個別対応に苦慮した。
 - アレルギーではないが、ムスリム生徒についての食事対応を準備していない施設は未だ多いと感じた。
 - 修学旅行の最終日、ホテルでの全体食事の際、ホテルの係員の方が、「アレルギー対応の生徒は以上でしょうか?」と、他の生徒も聞こえる大きな声で話したのが気になった。声の大きさや他の生徒に気づかれないよう、配慮をしていただきたかった。

(6) 他校に紹介したい取り組み(主な意見を抜粋)

- 京都市の「エコ修学旅行」という企画に参加し、水筒やエコバック持参、食べ残し0チャレンジを実施し、布製のエコバックをいただいた。
- 例年のリーダー会とは別に、今年度は、京都修学旅行でのエコ活動を行った。学習図書委員の活動として、SDG sの取り組みの一環で、日頃ような活動ができるかを考え取り組むことができた。事前の活動、旅行中の活動、活動報告会、事後の活動報告として新聞の記事に「私のエコ活動」と称して新聞作成を行った。
- 栃木県から案内のあった「エコたび栃木」に参加した。支給していただいたエコバックの利用や、資源やゴミに対する生徒への意識づけを通して、付加価値のある修学旅行になった。
- 栃木県が募集していた「エコたび栃木 修学旅行」に応募した。本校はSDG sを軸に総合的な学習を進めているため、生徒たちに様々な取組を意識させることができた。頂戴したオリジナルエコバッグを持参し、有効利用できた。
- 外国人留学生との京都市内散策を実施。
- 各班別行動の内容にて、海外の方へのインタビューという外国語活動を取り入れた。どの生徒も、なぜ日本に観光に来たのか、なぜ京都を選んだのかなど、海外の方の思考を聞きながら、外国語学習をする機会を取り入れた。
- 英語での外国人観光客へのインタビュー及び帰ってきてからの報告会。
- 総合学習で、「京都のように観光客を呼び込み、地域を活性化させるにはどうするか」についてフィールドワークを行い、英語科で外国人向けのプレゼン資料の作成を行い、京都市役所の職員にプレゼンした。
- 河村能楽堂のおもしろ能楽講座は生徒にもとても好評であった。とっつきづらい能というものを、若い世代にも大変わかりやすく、興味を引きつけるような説明していただいた。
- 2日目の班別行動時は、全体で着付け体験を行い、良い思い出に残るものになった。着付けをすることで、制服で行動する他校との見分けや生徒たちの写真も今までにないものになった。着物でしか味わうことのできない涼しさを知ることもできた。
- 3日目の清水寺で、全員着物着用で全体写真を撮り、着物姿で散策した。
- 1年次より総合的な学習の時間に防災のことを学び、修学旅行で人と防災未来センター（兵庫）を見学したこと。
- 昨年度は1日目奈良、2日目京都班別行動、3日目大阪班別行動を実施したが、今年度は初日に大阪の吉本ビルで表現活動のワークショップ体験活動を実施した。2日目は京都市内班別行動、3日目は同市内バス観光であった。奈良には行かなかったが充実していた。
- 1日目は、自分の行きたいコースごとのグループ単位に分かれて見学をした。(あべのハルカス、吹田スタジアム、道頓堀、法隆寺、平等院、琵琶湖)
- 2日目班別行動は、1. 事前に行動班ごとに旅のテーマ（国宝を極める、スイーツを極める、アニメ聖地巡礼など）を決め、見学地を設定する。
2. タブレット端末を持参し、写真撮影、インタビュー活動を記録して「京都おすすめ旅」として後日学校にてプレゼン形式で発表した。(保護者、2年生向け)
- 茨城空港から飛行機で神戸空港まで移動した。1人あたり補助金1,000円をもらうことができた。
- 兼六園でのボランティアによるガイドの採用（地元の方との触れ合いや、学習の深まりにつながる）
- 広島を訪問するにあたり、社会科の時間を活用して事前に「平和学習」に3時間取り組むことで、各自が課題意識を持って語り部さんの話を聞き、平和記念資料館を訪れることができた。
- 広島平和資料館が無料（送料のみ負担）で貸し出している平和教材の活用を事前学習で取り寄せた。
- 広島一平和学習を深めることができた。G7サミットが重なり、非常に生徒にとって、有意義だった。
- 世界平和を誓い、サミット後に広島の平和記念公園において、平和集会を行った。外国人旅行者からも大

きな拍手をいただき、生徒の平和への意識を高めることができた。

- 東日本大震災遺構伝承館はよかった。
- 白川郷にて現地の小中学生と交流した。グループごとに分かれて白川郷を案内していただいた。
金沢市内での班別行動では、現地の高校生に案内をしていただいた。
- 函館トレジャーハンターの体験活動は子どもたちも楽しめた。
SDGs の狙いが達成できた。
- 修学旅行訪問地について事前に調べた内容や事後に班ごとに作成した旅行記を1冊のガイドブックにまとめることで、修学旅行の思い出を形にするとともに、将来的にも活用していきたい。
- 修学旅行に向けて、班づくりや係会議、運営委員会での話し合いを進める中で、生徒に考えさせる時間を確保し、生徒の意見を大切にしながら、内容の吟味を行わせた。可能な限り生徒の自主的、自治的な決定ができるよう、学年全体で指導した。その中で、旅行出発当日までの期間は、旅行の狙いを達成させるための取り組みを設定した。
- 修学旅行の実行委員や活動班決めなど2年次から準備をしないと間に合わないが、本校は3年次にも学級編成を行うため、毎年工夫が必要であった。今回は、学級の枠を外して実行委員や班の各係を決めてから活動班を作ってみたが、予想以上にうまく機能したので良かった。
- 総合的な学習の時間での「まちおこし協力隊」と関連させ、地域のパンフレットを作成し旅館に掲示させていただいた。
- 自作のフォトラリーを行った。下見時に教員がインスタントカメラで写真を撮影して冊子を作り、旅行当日、生徒に同じ風景同じポーズで写真を撮り、得点を競わせた。
- 班別行動の際に生徒は、グループに一台タブレットを持参。写真や記録をとることで、修学旅行後の活動（「修学旅行おすすめるるぶを作ろう」）に生かした。
- 班別行動でのスマホ(マップ・乗り換え案内・カメラ)利用。ドキュメントでしおりを作成、また、事前学習もドキュメントを利用。班別研修報告はスライドを用いてまとめ、全て生徒がICTを活用して作成した。
- 携帯電話を持っていくことについて、「〇〇してはダメ」というルールではなく、「写真を撮る」「緊急時に電話をかける」という使用目的を実行委員(各学級委員)が考え、使用を許可した。また、事前に実行委員らによる情報モラルに関する集会も行った。誤った使い方をした生徒はいなかった。その後もSNSなどに載せた⇔載せない等のトラブルも起きていない。
- 若干の制限をかけながらもスマホの持ち込みを自由とした。生徒たちは節度ある使い方ができ、トラブルもなく、逆に班別行動が予定どおりに行かなかった場合の連絡ツールとして役立った。
- 個人情報紙ベースを持ち歩かず、グーグルクロームに入れてスマホから見られるようにした。
- 修学旅行の終了後、京都・奈良紹介CMを作成(後輩につながるよう)した。
- 修学旅行中に避難訓練を実施・防災マニュアルを携帯させた。
- 御礼文を部屋に置いて帰り、宿舎の方々に大変感謝された。

(7) これからの修学旅行実施について課題と思われること(主な意見を抜粋)

- 諸々の金額が高騰している中、修学旅行の費用も見積もり段階より大幅に増えている。今後、どこまで保護者負担に頼れるか心配である。この内容で6万円を超えたら実施の意味を問う必要があると感じる。
- 修学旅行の予算と内容、準備や教員の負担と教育効果とのバランスが今後の課題だと考える。
- まず修学旅行費用が毎年高くなっていることと、修学旅行列車の予約が7月にも入っているが、今後この暑さが毎年続くとなると7月の実施はかなり厳しいと考える。また、総合体育大会の実施時期も早めていく必要性も出てくると、なおさら修学旅行の実施時期の再検討が必要になる。
- 会計報告が教諭の仕事になっているのがたいへん負担である。交通費が値上がりしているので、予算立てを多くい見積もった方がいい。(今回は2学年の宿泊学習の残金があったので、徴収しなくても実施できた。)
- 家庭の経済状況によっては、旅行代金負担をお願いする限界にきている。これ以上、旅行代金が増えるようだと、修学旅行実施の有無から検討せざるを得ない。
- 今後、物価高、原油価格の高騰、人件費の高騰により、生徒1人当たりの費用が高くなると思われる。2泊3日で10万円の時代も到来するかもしれない。どのようにして費用を抑えるのかが大きな課題だと考えている。また、引率する教員に県から支給される旅費も上限があるため、旅費の金額だけでは不足してしまう場合、不足分は教員が自己負担しなければならない可能性もでてくるが、基本的な問題として、引率業務に係る諸費用は、全額、県から支給されるべきものだと考えている。物価高、原油価格の高騰などに伴い、教員の旅費も増額していただく必要があると感じている。
- 修学旅行の費用が高騰してしまい、保護者の負担増に課題があると考えられる。少しでも費用を抑えることができるような工夫(列車を他校と合同で使用等)を、引き続き取り入れることが必要だと感じた。
- 金銭面に関して、上限金額の見直しが必要と考える。
- 費用が高額すぎる為、保護者への負担軽減を検討しなければならない。交通費が課題である。今後は北関東・東北方面についての研究を進め、十分な学習効果と費用削減が見込める場合には転換を検討したい。
- 職員の出張旅費の不足。
- 修学旅行の費用がかなり高額になり、保護者負担がかなり大きい。バスやタクシーの使用時間を減らすなど工夫や、旅行積立開始時期を早めるか等を考えているが、解消には至っていない。経済的理由で参加できない家庭が増えてきているのも事実である。
- 京都・奈良方面は、海外からの観光客も相当増加することが見込まれる。本校ではタクシー班行動を例年企画しているが予定通りに見学地に行けるのか不安がある。ましてや、令和6年度以降に路線バスを組み込んだ修学旅行の班別行動は難しいのではないかと危惧している。
- インバウンドが増える中、京都観光の自由度が狭くなっている。
- オーバーツーリズム問題。特に京都方面は、観光客が多すぎて、実施内容に支障をきたす。
- バス代の高騰などにより予算を超過。班別行動では、京都・奈良方面は混雑などにより、予定の計画が実施できない。(食事場所、交通機関の混雑など)
- 現在は、本校を始め関東の学校は京都・奈良方面に修学旅行に行っているが、インバウンドを始めとする増加による混雑による不具合が出ているように思われる。場所を分散させるのも手段の1つだが、京都・奈良の魅力もあり難しい問題だと感じている。
- 費用の面で保護者の負担が大きくなっている。外国人観光客も戻ってきてかなり混雑しており、予定の見学ができなかった。一極集中的な状況である。実施時期をずらす方法もあるが、その場合費用の問題が発生する。修学旅行の目的を再考し、遠距離移動を要しない近場での実施に切り替える方が良いのか迷っている。コロナ禍に1泊2日で信越方面に行った学年があったが、それはそれなりに思い出に残ったと生徒は話していた。必ずしも京都奈良ありきではないのだと感じている。

- 地球温暖化に伴い、7月や9月の旅行的行事実施が難しくなったと感じる。10月にすると新人総体と重なるため、夏の総体もそうだが、小中体連には大会の実施時期等について再考を強く求める。
- 9月の京都奈良の修学旅行については、暑さ対策が課題であると思う。(時期の検討)
- 実施時期についてであるが、新型コロナのような感染症が今後も発生した場合、3年生で計画するよりも、変更できる時間が取れる2年生で計画をしておいた方がよいのかとも考えている。
- 部活動が地域移行になると、修学旅行の時期にクラブの大会が重なることが頻発する。中体連大会はほぼ同じ日程なので、修学旅行側の方で配慮できるが、今後は難しくなる。
- 感染症対策は今後も気を抜けない。ワクチンも治療薬もインフルエンザのように進んでいない。今後新たに懸念される感染症が世界的にも指摘されているが、日本ではどのような備えが進んでいるのか不明である。
- コロナが5類になり、従来通りの修学旅行に戻りつつある中で業者担当の中でも、不慣れな人がいると感じた。受け入れる側も食物アレルギー等に関して整備する必要があると思う。
- コロナ後の運転手不足で、京都でのバス貸し切りに支障が出た。当日大型タクシーで代替した。
- 今年度はコロナ対応の為に北海道に行ったが、教員の考えでは、京都・奈良修学旅行のイメージが強い。京都・奈良の混雑や実施日が大会中になってしまうことも考えると、方向を変更していくことも必要。
- 今後も感染症や自然災害によるキャンセルのリスクが続くと思われるので、それに対応したあまり高価でない保険が必要。
- コロナ禍が落ち着き数年前と変わらずに修学旅行の実施をすることができたが、1日目、台風2号とぶつかった。荒天での修学旅行については今までもきつとあっただろうし、そしてこれからも考えられるが、2日目、3日目に台風がぶつかってしまった学校は大変だったと聞いた。荒天が予想される場合の行動計画や新幹線が止まった時の対処などを旅行会社と相談が必要ですが学校の検討事項として入れたほうが良いと思う。加えて、新幹線が止まった時の保険は低額なので、ぜひ入った方が安心できるだろうと考える。
- コロナ禍で個々の活動が多かったため、コミュニケーションを取る場があまりなかった。今後は一つのことをみんなで協力して成し遂げるといった活動や、それぞれの情報を共有し、共感する機会を増やした旅行を考えていきたい。また家庭の経済状況を鑑みて、修学旅行費用の負担を少しでも軽減できるとよい。
- 当市は連合で参加するため、新幹線がB列車と決まっている。そうすると、現地に着く時間が遅くなるため、見学地が狭まってしまう。A列車が使えれば実施内容を変えることができるのでありがたい。また、民泊などの修学旅行も増えてきたと聞いているが、本市ではまだそういう考えは浸透していない。ぜひ、京都・奈良の見学といった従来の修学旅行の形ではない新しい形式の修学旅行の情報を一般の校長が広く聞く機会があるとありがたい。
- 旅行時期や旅行地の選択など、物価高騰等の影響から以前と同内容での実施は困難な状況である。費用対効果の高い学校行事となるように、保護者の理解も得ながら計画、実施していきたい。
- 生徒が自主的、自発的な取り組みをするように、事前に全体構想を考えておくこと、できるだけ生徒の意見を取り入れることが大切である。そのためには、修学旅行の実施時期も極端に早い時期にならないようにする必要があるとも思われる。
- お決まりの京都や奈良に行く意義、修学旅行に行く意義が問題になってくる。目的地の理解がなされないまま、社会勉強を目的とするならば、交通費のかかる遠方に行く必要はない。近場や、本当に必要とされる場所でボランティア活動を行った方が良いのではとも考える。
- 現状は、教員の準備を含めた負担軽減や安全面への配慮から、ほとんど観光旅行のようになっており、「学び」や「体験」の要素が少なくなっている。「考える」、「感じる」ことにもっと重点を置いた修学旅行にするべきと考えている。
- 震災やコロナ禍を経て安心安全な観点が重視されていることはよいが、そのために修学旅行の目的が曖昧

- になってきている感じがする。何を学ばせたいか、実施する価値は何かを十分に検討する必要はある。
- 民泊先に災害があった場合の避難方法や、安全対策についての確認が必要。
 - 小学校から転勤してきた教員、コロナの関係で宿泊の指導を行ったことのない教員、修学旅行を引率した経験がない教員が一気に増えた。そのため、教員の京都市バスの乗り換えや班別行動のコース作りが経験不足であり、生徒への指導が十分にできないことが一番の課題である。
 - 生徒主体でいかに行事をつくっていくか。
 - 職員の報告連絡相談の徹底に LINE を活用したが、書き込んで安心してしまい、全員に周知されていると思込んでチーフや学年主任、管理職まで個々のスタッフの動きが把握されずに組織的な動きが崩れバラバラになりかけてしまったので、後半は口頭で報告連絡相談をすることを徹底した。
 - 京都・奈良方面にこだわらず、東北や北陸、北海道なども視野に入れていくことも必要かと考える。
 - 班別活動や部屋割りなどのグループを決める際において、生徒間のトラブルがよくある。それが保護者からの苦情として取り上げられるケースもある。修学旅行のあり方そのものを考える必要がある。
 - 費用対効果。生徒自身が得るものの大きさを保護者にも理解していただけるよう工夫すること。
 - 不登校生徒が修学旅行だけ参加するというケースが出てきている。その生徒によって個々の対応が求められる場面があり、旅行先で団体行動をしている最中なので、対応が難しくなっている。
 - 今回の欠席者が、宗教上の問題で寺社仏閣が参拝できないというものであった。日本の文化を学ぶ上で必要であるとは考えられるが、見学地等で宗教色を減じていく必要があるとも考えられる。
 - 新幹線の申し込みが早すぎる。できれば、2年前(中学1年時)の2学期半ばまでにできないか。生徒自ら、修学旅行で何がしたいか、旅行先や体験したいことを決めさせたいが、1学期締め切りでは検討する時間がなさすぎる。
 - LGBT への対応を考えていかななくてはならない。(部屋割りや入浴など)
 - 旅行会社4社に声をかけたが、人手不足を理由に3社からは応札がなかった。
 - 旅行会社がコロナ禍で人員整理を行ったことで、入札依頼をしても辞退するケースが増えている。今後、入札不調で、修学旅行に行かれないというケースが出てこないか心配である。また、旅行会社がこちらのニーズに対応できないケースも増えてきそうである。修学旅行を引き受ける事業所が減っているとともに、経験値の乏しい担当者が増えている。
 - 本校の場合極小規模校のため、次年度以降は2学年合同でいかなければ人数的に割り引き等を受けにくい状況になるため、実施方法の検討をしている。交通費が割高になり、なかなか大変である。また、旅行会社でも手配を嫌がる会社も見られ、大手は実質1社しか扱ってくれなかった。今後、どのように旅程を組んでいくかなども、様々な方法を考えていかなければならない。
 - 旅行会社のプロポーザルにおいて、魅力的な宿泊地がひとつもないと苦しい。しかも今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で宿が倒産したことも厳しかった。旅行会社とのやり取りがうまく行かない。(返答が遅い・返ってこない等) 今後、各学校に割り当てられる営業担当者が、信頼に足る人物であるか非常に不安である。
 - GIGA タブレットを積極的に持って行かせたい。ポケット Wi-Fi の持ち出しなども検討したい。
 - スマートフォンを禁止している学校がほとんどであるが、情操教育を行い、スマートフォンを持たせて、自分たちでルールを考えさせる必要性が出てくると感じた。実際に持っていれば、GPS で位置がわかる、迷子になっても電話できる、道案内を活用できるなど、便利な要素がたくさんある。ゲームやメール、SNS など、心配点もたくさんあるが、それを含めて、話し合わせる必要があると感じた。
 - 見学地や食事等の割引券をアプリやインターネットで取得できることが増えているため、生徒個人に携帯電話を持たせるかを検討する必要がある。

**2023(令和5)年度
修学旅行の実施状況調査**

関東地区公立中学校修学旅行委員会

集計と比較

2024(令和6)年2月
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8
Tel : 03-5275-6651 Fax : 03-5275-6653
E-mai shuryo@h2.dion.ne.jp
URL <http://shugakuryoko.com>